
特集：徳島県の医療と教育：その現在と未来

当院における臨床研修

永井 雅巳

徳島県立中央病院院長

生涯教育の重要性が求められる医師のキャリアの中で、とりわけ卒業後の2年間の初期研修期間と、それに続く数年間は、その後の専門性を高める上で、きわめて重要な期間と思われる。すなわち、将来より高い専門性を獲得するために、幅広い裾野を形成する期間である。そのため、当院の初期研修では、救急科、総合診療科を、1年次、2年次に各2ヵ月間研修するようにしており、救急科では、1年次には主に1次救急を、2年次には2次、3次救急に対応することにより、common disease から、急性薬物中毒、多発外傷、熱中症など臓器横断的な身体疾患まで、また精神科救急に至るまで、より多くの症例に接し、一般的な救急初動治療法を学習する。また総合診療科では、丁寧な問診、理学所見の取り方、鑑別診断法、診療録記載法などを学習する。さらに、経験に裏打

ちされた知識や技術に加え、この時期に身につけてほしいリーダーシップ能力やプレゼンテーション能力、情報の収集と整理の仕方についても学習する。2年次には、希望により沖縄県立中部病院や八戸市民病院など先進的な臨床研修病院を視察し、spoon-feeding によるのではなく、自立的・積極的な研修法についても体験してもらう。

平成16年に始まった初期臨床研修制度は、途中の制度改定を経て、今年で11年目となる。新臨床研修制度1期生は、当院でもすでに病院の中核スタッフとして、活躍してくれている。専門医制度の導入を前に、今改めて、本制度導入の目的は何か。また何のため、誰のための研修制度かを考え、当院における本制度の課題・問題点についても考察する。